

第7回広陵町ごみ減量等推進審議会 議事録概要

■ **開催日時** 令和6年5月16日（木）午前10時～午前11時30分

■ **開催場所** リレーセンター広陵 3階 研修室大

■ **出席者**

<委員> 11人（欠席4人）

<町・事務局> 4人

■ **次第**

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 広陵町のごみ減量対策等の取り組みに関する諮問事項についての答申（案）について

4 その他

5 閉会 次回開催日の日程について

■ **配布資料**

会議次第 座席表 委員名簿

広陵町のごみ減量対策等の取り組みに関する諮問事項についての答申（案）

■ 議事内容

3 議事

- ・（１）広陵町のごみ減量対策等の取り組みに関する諮問事項についての答申（案）について

（事務局）

議事の１、広陵町のごみ減量対策等の取り組みに関する諮問事項についての答申案について説明。
変更させていただいた箇所について説明。

（事務局答申案の説明）

（会長）

「１ はじめに」の部分について、まずご意見あれば頂戴したい。

はじめのところ「審議会の開催」下から４行目「審議会の再開」、同じメンバーの人が審議会を再開したという表現にとれる。前回の審議会委員とは異なるメンバーとわかるようにした方が良いのではないか。町長から「新しく選任された委員」から審議会に対して…とした方が良いのではないか。

「２ 基本的な考え方」の部分について、ご意見あれば頂戴したい。

「更に、平成28年4月に…」の表現がP.11にもある。P.11には詳しく出てくるが、最初に出てくる方に詳しく入れた方が良いのでは。下から２行目SDGs 未来都市が後の方にいつ選定されたが出てくるが、最初に出てくる方を明確にした方が良いのではないか。

「４ これまでの減量に向けた取組や行動計画等への評価とその効果」の部分について、ご意見あれば頂戴したい。

P6の別紙４，５，６について委員から情報をいただき事務局でまとめた資料ということである。

(委員)

提供した資料について、行政・住民・事業者の役割を踏まえてごみ減量化をどういう経緯でやったかを尋ねていた。なんの分析もされていないと感じている。自治体も高齢化が進んでいて人数も少ないのでごみの量も減る。インターネットで公開されている人口、世帯数の増減について提供させていただいた。別紙4, 5, 6についてどう委員がとらえるのか、意見を聞きたい。

(会長)

人口増とシンプルに考えていいのかという意見があった。別紙4, 5, 6については、議論はあとでさせていただいて先に本文を事務局にいられていただきたい。P.5について意見があればいただきたい。

タイトルについて、「ごみ減量」と「ごみ減量化」の意味合いが少々違うように思う。

ごみの減量にどういった動きをしているのか。ごみが減量しましたではなくどう減量化させるのかの意味を含めて、タイトルに「化」をいれた方がよいのでは。P.6「最後に、」はということなのか分からないので、避けた方がよい表現なのではないか。人口が5.63%とあるが、6と3の間が離れてしまっているのが気になるので、文章を作る際には気を付けてほしい。

充分推敲されていない文章であると申し上げたのは、審議会第5回目のときには住民の役割、事業者の役割、行政の役割が1ページにわたってまとまっていたが、前回で全部なくなっている。その代わり別紙3がより詳しくなった。図が詳しくなっただけで、文章の大事なところが欠落してしまった。別紙3があるので文章として説明したものが必要である。第5回審議会のときにはあった文章を戻してもらいたい。

「以下に…」とあるが、主語がなくてわかりづらい。次回までにより分かりやすいものにしてほしい。

「ごみの排出状況への効果…」について、別紙4, 5, 6が入っている。表現方法について意見を申し上げている。ごみ減量化に向けた取組みは第5回目の文章が復活する。別表みたいな形で別紙1, 4, 5, 6については、別紙ではなく本文中に入れた方が文章としてはわかりやすいのではないか。

(委員)

4のタイトルについて、会長がおっしゃるのは当然だと思う。町長からこの審議会に受けている諮問内容について、この文章自体がごみ減量化に向けてなので、事務局がそれでいけるのか。議会

からもらった文章をそのまま審議会になげられたものなので会長がおっしゃったように事務局には努力してもらいたい。

(事務局)

町長から議会に答申なげられたものをそのまま入れている。事務局の方でも違和感があったので、内容も含めて検討する。

(委員)

P6の図について、これだけ別紙ではなく、大きなタイトルのお話をしているなかで生ごみ処理機によりどれだけ減量が進んだかの分析がないのにここに大きく載せる意味合いは何か。

(会長)

これだけ図があるので注目してしまう。別紙4, 5, 6はこれから同じように入れてもらうことになる。高齢化等についても入れるので、これだけ目立つことはなくなるのではないか。事務局が入れたのは、生ごみ処理機の効果、事実の紹介として取り上げられている。とりあえずこの図も入れたままにしておいてもらって、事務局には他の図を入れたのち、この図が必要かどうかを再度議論してもらいたい。

(委員)

P6について、「及び」「並びに」の使い方とか、文章のなかに図をいれたらどうか。別紙3はP.12で初めて出てくるので、若い順にナンバリングしてもらった方が分かりやすい。

(会長)

次回までにわかりやすいように表現してもらいたい。P.7の文章が新しく入っていたが上から2行目「推察されます。」は使ってはいけない文章ではないが、答申書の案の検討をしている段階なので、審議会がまとめるものである。審議会は第三者機関であり、答申のなかには、前向きの文章になっていくはず。このあとの文章もそうだが、役場としての記載になっているように感じるので、第三者機関が作った文章に変えていくべきである。こういう方向でやっていくべきとかの議論はして

きたが、第三者機関としての文章としていきたい。中身的には事務局の方で提案してもらったものではあるが審議会の方で判断してまとめたものになるので、文章を変えていく必要がある。

次回からはそういう文章で提案してもらいたい。委員がおっしゃったように図の順番も若い順に記載してほしい。

また、別紙についての説明文をつくらなければならない。この図はこういう意味の図であるというように。別紙1, 2, 4, 5, 6の意見をもらいたい。別紙1は人口が増加していることの経年変化、ごみ袋の有料化に伴う量の変化、総量を比較すると平成19年度(翌年)からは減ってきている。人口への変化に伴う量は別紙4, 5, 6、別紙2ごみの減量化の取組は「広報紙に掲載されていたものが年に何回ありました」という内容である。生ごみ処理機は広報紙には3回ほど出ている。町からの広報があり、住民としての集団回収をやっている。行政としては資源ごみの確保、3者でこういうことをやってきたというのが表れている。これで施策の取組としては十分かどうかは別の話だが。別紙4人口の増加と奈良県の景気動向指数が入ってきた。これを見る限り、H18のごみ有料化と同時に奈良県の景気が下がっている。ごみの量と景気が連動しているのではないか。別紙1, 2, 4, 5, 6の意見をいただき、事務局には明文化してもらいたい。

(委員)

事務局では別紙をつくってどう思ったのか。1年経ってようやく出てきた。これは、本来は役場としてやっていくべきことである。事務局としてどう思っているのか意見を聞きたい。

(会長)

今回提示されている答申案はまだ完成させていないものであるので、事務局としてこうしていきたいとの意思が表れていると思っている。これから文章を作ってもらっていく。役場の立場で文章化してしまっているが、次回は第三者機関である審議会ですべてまとめた文章として提示してもらいたい。

(事務局)

おっしゃっていただいているようにこれまでは大きい話であったので、別紙4, 5, 6とミクロな内容をみると進んだ分析ができてきたのではないかと感じている。大きな要因としてはごみ袋有料化が大きく寄与しているが、それに加えて自然な流れとして核家族化、高齢化が進んだことの要素がある。人口が増えてきたが有料化でごみを減らそうという意識が向上したものと自然な流れが

一緒になったことで全体のごみ量が減ったと考えている。答申P.7について、提示した資料では文章での分析を載せられていないため、4, 5, 6の内容を踏まえて文章をまとめ次回提示する。

(会長)

第5回目資料の3者の役割を戻してほしい。それと合わせて高齢化、核家族化に対してごみ問題に対してどうしたらいいのか。大きいごみ袋を持つことが出来ないときに小さなごみ袋でいいのかとか、レジ袋にごみを入れて出される方もいたりいろんなパターンの方がいる。住民の役割、事業者の役割、行政の役割、3者の役割についてもう少し具体的に。高齢化社会のことについてもどう実践していくか、SDGsのこともどう実践していくかの議論がほしい。しかし、議論するには今の資料では少し資料不足かなと思う。

(委員)

別紙1の平成28年度ごみの量について、この年からごみ減量フェアが開催されているのでもしかしたらこれも影響しているのではないかな。また、別紙2の事業者のところ为空欄になっているのでいらないのではないかな。あえて載せるのか。レジ袋が有料化になったのはいつかわからないが、レジ袋削減のところの空欄が必要なのかなどうか。

(会長)

レジ袋については啓発をしてこなかったのか。ここに重点を置いてこなかったという経緯として、空欄はそのままにしても良いように思う。重要なのはこれからをどうするかである。

(委員)

別紙2の流通・販売ルートでのごみ減量はどのようなものか。店頭回収のことか。

(事務局)

そのとおりである。

(委員)

そうであれば広報に載っていたように思う。また、ごみ減量フェアはフリーマーケットのことか。

(事務局)

行政主催で、令和4年度から毎年リレーセンターがエコフェスタと名前を変えてフリーマーケットを開催している。最初のころは不用品を募集して、欲しい方とマッチングした場合は持って帰ってもらっており、広報紙でも紹介していた。

店頭回収について、事業所がどう取り組んでいるか行政としては広報に記載していない。これはそれぞれの事業者が独自にされているもので、町としては広報に記載していなかった。どう取り組みをされているのか教えていただければ、今後広報にも記載するか検討することになる。

(会長)

「5 今後のごみ減量対策への取組、ごみの分別種類の選定及び収集方法について」の部分について、ご意見あれば頂戴したい。

P.11以上のことから…について、答申書に合わせた文章にかえてもらいたい。第6回目の審議会でも同じ文章があったが、①②③令和10年度までの4年間の間の表現を変えていきたい。①…めざすの中身については議論されていないが、こういった目標値でよいのではと思っている。

(委員)

R10はR5で達成しているのではないか。目標値の記載があるが算数的にどういう根拠で出てきたのか。それを設定した結果どう実証できるのか。どうやったのかを検証できないと意味がない。こういった理屈でこういう数字を設けたのか、どう実証したらよいのかを提示してほしい。

(会長)

数字を出すだけでなく根拠を次回説明してもらいたい。

P.13※は2ページにいれてほしい。表現としてP.12の「広域施設」は「広域ごみ処理施設」にしてほしい。天理市の広報で6月13日の締め切りでごみ処理施設の名前の募集をしている。今後変わるだろうが、今の段階では「広域ごみ処理施設」で良いのではないか。

(委員)

新しい施設では今の分別と異なる分別になる。別の委員会でも図化したものがあるのでわかりやすくそのように記載するという話があったと思うので、図も入れた方が分かりやすい。

(会長)

ホームページに出ている。JFEと天理市のホームページに図があるので入れてもらってよいかと思う。可能であればそういったところから図を拝借して記載するのが良いのではないか。

(会長)

「6 指定ごみ袋の価格について」の部分について、ご意見があれば頂戴したい。

(委員)

ごみ袋手数料を建設基金としてとあるが、本来は処理費に当てるのでは。建設基金に積み立てるのは用途が違う。以前と話が異なるのではないか。

(事務局)

この点について、元々建設基金はなかった。ごみ袋手数料はごみ処理に充てさせていただいていたが、議会でどういうふうに使われているかわからないため、新施設建設のために積み立てるようにと、そういった経緯もあり条例化されている。

(委員)

条例化されているが、有料化を決める際にごみ処理費用のどれくらいと基準があって価格を決めているはず。審議会としては、これは否定するべき。

(会長)

先ほど事務局が申し上げた経緯があり、決まってしまったもので否定はできない。

(委員)

建設基金として積み立てられて建設できました。であればごみ袋の金額を下げる、またはいらなくなるのではないかと。

(事務局)

現在、建設中の施設が完成したからといって終わりというわけではなく、今後建てる場合にも備えて、引き続き積み立てていく必要がある。

(会長)

建設がごみの有料化のきっかけになっている可能性もある。今の段階から次の施設の建設費も積み立てているということで有料化してもいいのではと思っている。積立基金については、条例化されていることもあるので覆すことはできない。

4 その他 次回開催日の日程について

(事務局)

次回の開催は、6月下旬から7月上旬を目途に開催したいと思っている。開催日が決まったら1か月前には通知する。

(委員)

審議会資料について、1週間前に発送するのではなく、1週間前には手元には届くようにしてほしい。

(以上)